

報告 平成30(2018)年度 評価結果

15大学の機関別認証評価を実施

認証評価制度第3期の初年度である平成30(2018)年度は、
15大学の認証評価と3大学の再評価を行い、その結果を公表しました。
また、40大学・3短期大学からの改善報告書等の提出を受け、審査を行いました。

■新評価システムで初めての評価

平成30(2018)年度からの認証評価制度第3期は、大学等の質的転換や内部質保証の確立の状況を重視した評価制度への変更が求められました。当機構では、関連法令等の改正を踏まえて、評価システムの大幅な見直しを行いました。

この新しいシステムで初めて認証評価を実施した結果、対象の15大学のうち14大学が「適合」、1大学が「保留」となりました(表1)。「適合」となった14大学のうち、11大学には「改善を要する点」の指摘があったため、今後3年以内に改善報告書を大学のホームページに公表し、エビデンスとともに、当機構へ提出することを求めました。また、平成28(2016)年度の認証評価で「保留」となっていた3大学に対する再評価を行った結果、2大学が「適合」、1大学が「不適合」となりました。

認証評価で「保留」となった1大学については、一部の基準を満たしていないものの、それらの要因が1年以内に改善することが可能であると大学評価判定委員会が判断したため、判定を保留し、令和2(2020)年度に再評価を受けることを求めました。また、再評価で1大学が「不適合」となった原因は、認証評価時に指摘された事項の一部が改善できなかったためです。どちらの大学に対しても、当機構の評価へのフォローアップ活動の一つである「事後相談」において、評価内容の確認や

表1 平成30(2018)年度 評価結果の概要

●大学機関別認証評価

「適合」14大学 (☆は「改善報告書」の提出を求めた大学)

☆秋田看護福祉大学/沖縄科学技術大学院大学/☆沖縄国際大学/
亀田医療大学/☆岐阜医療科学大学/☆九州保健福祉大学/
☆京都美術工芸大学/☆群馬パース大学/☆神戸情報大学院大学/
☆札幌保健医療大学/☆聖マリア学院大学/☆東京聖栄大学/
☆ビジネス・ブレークスルー大学/☆山崎学芸大学

「保留」1大学

大阪行岡医療大学

●再評価

「適合」2大学 ※()内は認証評価受審年度

愛国学園大学(平成28(2016)年度)/
筑紫女学園大学(平成28(2016)年度)

「不適合」1大学

松蔭大学(平成28(2016)年度)

今後の手続きの説明などを行いました。

なお、機関別認証評価、再評価ともに短期大学からの申請はありませんでした。

■「優れた点」の多くは学生への対応

評価結果として各大学の評価報告書に記載される「優れた点」は、これまで「他校の模範となる」かつ「先進的で、かつ十分に成果を挙げている」取組みとしていましたが、新評価システムでは、これらに「質の保証及び向上に寄与する」「個性・特色があり、一定の成果を挙げている」「十分に整備され機能している」などを加え、

C O N T E N T S

報告⇒平成30(2018)年度 評価結果	1
インタビュー⇒東京聖栄大学 丸山信一氏	3
STUDY・評価システム⇒独自基準と特記事項	4
DATA⇒平成24~29年度評価アンケート集計結果から	5
大学職員のためのよくわかる認証評価⇒「学修成果」とは	5

From JIHEE⇒認定マーク変更 フォローアップ事業など	6
報告⇒	
中央教育審議会のヒアリングを受けて 理事長・相良憲昭	7
Annual Plan & Report (事業計画・事業報告)	7
会員校	8

表2 基準ごとの指摘事項（数値は件数）

指摘の種類	基準名	基準 1	基準 2	基準 3	基準 4	基準 5	基準 6
	使命・目的等	学生	教育課程	教員・職員	管理・運営と財務	内部質保証	
優れた点		6	26	9	12	4	2
改善を要する点		1	4	2	14	7	9
参考意見		4	9	11	5	8	6

いずれか一つでも当てはまれば「優れた点」として取上げ公表することにしました。

基準別で「優れた点」の件数が最も多かったのは、基準2の「学生」でした（表2）。「個々の学生に対し、1年次にアカデミック・メンター、2年次以降の指導教員の選任及び3人の論文指導委員を組織するなど、指導が体系化されている」「学生の研究進捗状況が指導教員だけでなく教授会において教職員に共有されており、学修上のトラブルを抱える学生に対して一貫した支援ができる体制を整えている」「大学独自の給付型奨学金制度が充実しており、貸与型奨学金との併用が可能で、学生の経済的負担の軽減に資する」「傷病等発生時の対応や近隣病院・診療所のリスト、感染症発生時の対応、感染症の種類等に応じた出席停止の期間の基準などを明確に文書で示し、不測の事態にも対応できる体制が整備されている」など、特に「学修支援」と「学生サービス」に関する優れた取組みが多く挙げられました。

当機構のホームページでは、全ての「優れた点」を一覧表にして公表しています（トップ→「評価結果はこちら」）。

一方、「改善を要する点」は、基準4「教員・職員」と基準5「管理・運営と財務」に多くありました。

基準4では、平成29（2017）年度に引続き、学長のガバナンス機能に関する規則等の整備についての指摘が最多でした。ガバナンス関連の学校教育法等の施行からすでに3年が経過しました。この間、当機構では各種のセミナー等において過去の事例を紹介しながら説明をしてきましたが、法令改正への理解が不十分な大学があったことは当機構の今後の課題と言えます。

基準5の「経営・管理と財務」では、寄附行為に基づく法人運営、学校教育法施行規則や教育職員免許法施行規則に基づく情報公開に関する指摘が多く、学内規則の遵守、法令改正に関する情報の収集や対応に課題を持つ大学が少なからずあることがわかりました。

■「内部質保証」重視の評価

当機構の第3期評価システムの最大の特徴は、基準6

「内部質保証」を設定したことです。一部の大学では、質の定義や内部質保証のための組織・責任体制が明確ではなく、取組みが自己点検・評価活動に留まっていたり、自己点検・

評価活動と内部質保証が同じものとみなされていたりするなど、内部質保証が正しく理解されているとは言い難い状況でした。

基準6「内部質保証」を、評価における「重点評価項目」としたことも特徴です。そのため、他の基準において「改善を要する点」として指摘された内容で、内部質保証システムの機能性に問題があった場合は、基準6でも併せて指摘します。これに該当した「改善を要する点」は、9件中5件でした。

総じて、平成30（2018）年度の評価は、学長のガバナンス機能の構築、法令や学内規則の遵守などに課題があるため、内部質保証に関する更なる取組みが求められる一方、教学面においては、特に学修支援などにおける工夫や学生のためのサービスなどに関する積極的な取組みが目立ったと言えます。

当機構は、今後も引続きセミナーや説明会などの機会を通じて、内部質保証の重要性や他の基準との関連性などについて解説を行い、大学の理解を求めていく予定です。

■改善報告書の受理（80件）

当機構では評価のフォローアップの一環として、評価結果が「適合」でかつ「改善を要する点」の指摘があった場合、その大学・短期大学に対して3年以内に改善報告書などの公表と当機構への提出を求めています。

平成30（2018）年度は、40大学から延べ76件、3短期大学から延べ4件、計43校80件の改善報告書と根拠資料の提出を受けました。これらの改善報告書は、各校のホームページで公表されていることを確認しました。提出した大学・短期大学の名称と認証評価年度、改善報告の内容に該当する基準項目は、当機構のホームページで公表しています（トップ→「お知らせ」2019年3月20日）。

改善報告書の内容の内訳は、基準項目2-1（学生の受入れ）に関するものが最も多く、大学・短期大学合わせて27件、次いで基準項目3-6（財政基盤と収支）が12件、基準項目3-2（理事会の機能）が8件などとなりました。

恒常的な自己点検・評価が重要

東京聖栄大学は、平成30(2018)年度の認証評価を受審しました。企画調整室室長として、自己評価担当を務めた丸山信一氏に事前準備や評価結果への対応などについてお話を伺いました。丸山氏は、自己点検・評価を継続的に行うことが重要だと述べています。

新基準「内部質保証」は、どのように自己点検・評価されましたか。

今回の評価に当たって、三つの方針を起点とする教育の質保証と中長期的な計画を踏まえた大学全体の質保証が実現できるよう体制を整備しました。

教育の質保証を機能させる体制として、自己点検評価検討委員会が作成した報告書案を大学運営会議で審議し、教授会の意見を聴いた上で、学長が自己点検・評価報告書を作成しました。自己点検・評価で挙げた課題は、学長のリーダーシップのもと各委員会が対応しています。

大学全体の質保証については、法人が策定した中長期計画を常務理事会で確認し、学園運営会議に報告するとともに、大学に関する部分の進捗状況管理を大学運営会議で行うという体制で取り組んでいます。

しかし、体制は整えたのですが、自己点検・評価と内部質保証の関係や違いについては、深く理解しておらず、IR^{*1}機能などの活用には至っていませんでした。実地調査での評価チームとの面談で、理解が深まりましたので、より具体的な取組みを進めていけそうです。また、評価機構のセミナーに継続的に参加するとともに、受審のてびきは、変更点を毎年確認して、新しい情報を取入れるように心掛けています。

新システムから導入された特記事項、法令等の遵守状況一覧には、どのように取組みましたか。

特記事項については、実態・実績がある取組みの中から、①ビジョンの具現化に向けた経営部門と教学部門の協働、②継続的な学修支援体制、③存在意義を果たす成果を挙げました。三つ目の成果とは、高い就職率、退学者数の減少のことで、どれも当たり前のように日常取組んでいることですが、特記事項に何を記述するか検討する過程で、学外に対してアピールしたい本学の



丸山信一氏
東京聖栄大学
企画調整室 室長
(自己評価担当者)

特色が確認できました。

大学運営において法令遵守はとても重要なことと考え、自己点検評価書の作成に当たっては、法令等の遵守状況一覧から始めました。遵守状況の説明を記述する過程で、教職員が法律を正しく理解しているかどうかもチェックできました。また、認証評価用とは別に法令全文を加えた一覧を作成し、学内で共有し活用しています。

評価で指摘された事項にはどのように対応していますか。

公表、大学のみで通知にかかわらず、参考意見、改善を要する点とも一つの表にまとめ、各委員会は、その表をもとに、改善に取り組んでいます。また、毎年行っている自己点検・評価にその表を取込むことで、課題の改善状況を常に把握できる仕組みを構築しています。

平成23年度に受けた前回の評価では、FD^{*2}活動について改善を要する点での指摘がありましたが、今回の評価では、教員の授業参観などが評価され、優れた点として取上げられました。これは、継続的に自己点検・評価活動に取り組んできた成果だと思います。今回の認証評価を受けて、恒常的に改善に努めることの重要性をより強く感じました。

*1… Institutional Research *2… Faculty Development

独自基準と特記事項

当機構の第3期の評価システムは、「自己点検評価書」に「独自基準」の設定を求めるとともに、「特記事項」を記述できるようにしています。

いずれも、大学の個性・特色に配慮した評価を実施するために定めています。

■ 独自基準は第2期から導入

「独自基準」とは、評価機構が定める六つの基準以外に、大学が個性・特色として重視している領域について、独自に設定する「基準」のことです。基本的・共通的なものである六つの基準に「独自基準」を加えることにより、全大学一律ではなくそれぞれの大学の実状に合うよう、大学の多様性に配慮した評価を可能としています。

「独自基準」は、第2期評価システム（平成24（2012）～29（2017）年度）から導入しています。受審大学及び評価員へのアンケートによると、評価基準を「六つの基準」と「独自基準」に分けて構成することで、大学の個性・特色がより明確になった、という意見が多く、第3期評価システムでも継続しています。

■ 社会にアピールするための特記事項

第3期評価システムから新しく設けた「特記事項」は、大学が「自己点検評価書」に特筆したい特色ある教育研究活動や事業等を記述するものです。「特記事項」を社会に公表することを通じ、大学の取組みの更なる向上と他大学との差別化を図り、大学の特色を社会にアピールすることを期待しています。

「特記事項」は、「独自基準」に記載されている事項以外のことについて、大学及び法人の活動を記述する

ことができます（図1参照）。

「特記事項」の評価は行わず、コメントも付しませんが、公表するため実地調査時に行う「顔合わせ」及び「大学責任者との面談」で、事実の確認を行います。

■ 個性・特色がわかる自己点検評価書へ

「独自基準」は「基準項目」「評価の視点」を設定し、六つの基準と同様に自己点検・評価をし、「自己判定」を記述します（図2左参照）。「独自基準」はいくつでも設定できますが、「特記事項」は3点までとしており、タイトルを付けて1ページ内で記述します（図2右参照）。「自己点検評価書」の「独自基準」と「特記事項」を読めば、その大学の特長と個性・特色として重視している領域が分かるようになっているのです。

当機構のホームページでは、全ての評価結果を公表しており、大学ごとに「自己点検評価書」へのリンクと「評価報告書」の全ページを掲載しています。平成30（2018）年度から「特記事項」を「評価報告書」の最終ページに転載するとともに、「特記事項」のページのみを抜粋したファイルも掲載し、ワンクリックで確認できるようにしました。

なお、「独自基準」及び「特記事項」についての説明を掲載している受審校用マニュアル「受審のてびき」も、ホームページで公表していますので、合わせてご確認ください。

図1 特記事項の範囲

「独自基準」以外の法人を含む活動（網掛け部分）が範囲になります

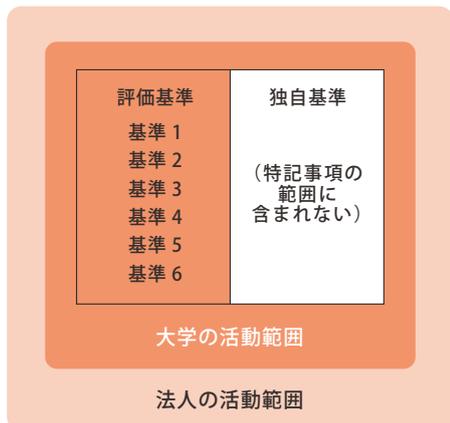
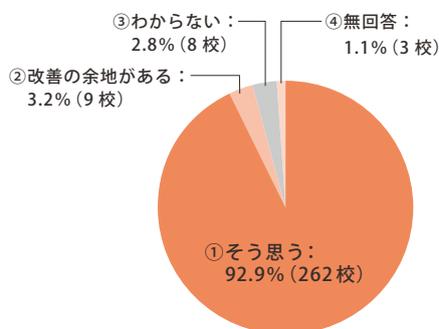


図2 自己点検評価書の独自基準と特記事項の様式（イメージ）

<p>IV. 大学が独自に設定した基準による自己評価</p> <p>基準 A. ○○○○○○</p> <p>A-1 ○○○○○○○○○○○○</p> <p>A-1-① ○○○○○○○○○○○○</p> <p>(1) A-1の自己判定 基準項目 A-1を満たしている。</p> <p>(2) A-1の自己判定の理由 (事実の説明及び自己評価)</p> <p>.....</p> <p>(3) A-1の改善・向上方策(将来計画)</p> <p>.....</p> <p>[基準 A の自己評価]</p> <p>.....</p>	<p>V. 特記事項</p> <p>1. タイトル</p> <p>.....</p> <p>2. タイトル</p> <p>.....</p> <p>3. タイトル</p> <p>.....</p>
--	--

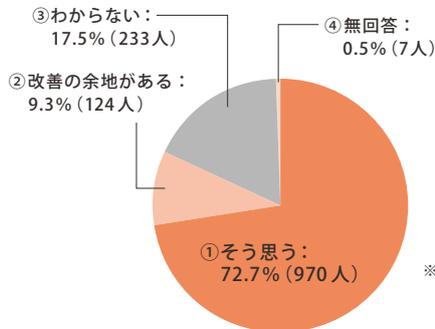
《大学への質問》

大学の改革・改善を促す評価であったか



《評価員への質問》

担当校の改革・改善を促す評価ができたか



※平成24～29年の各年度に実施したアンケート結果を合算。
回答総数は大学282校、評価員1334人。

当機構は、評価を実施した大学と担当した評価員に毎年アンケートを行っています。認証評価第2期に当たる平成24(2012)～29(2017)年度のそれらを総集計したデータの一部を紹介します。

大学へは「大学の改革・改善を促す評価であったか」、評価員へは「担当校の改革・改善を促す評価ができたか」とほぼ同様の質問をしました。大学の回答総数282校中、「そう思う」と回答した大学は262校(92.9%)で、「改善の余地がある」は9校(3.2%)でした。一方、評価員の回答総数1334人中、「そう思う」との回答は970人(72.7%)

で、「改善の余地がある」が124人(9.3%)でした。

満足度は、大学が比較的高く、評価員がやや低いことがわかりました。評価員は、「わからない」との回答が大学と比べて高い割合を示していることから、評価結果が大学の改革・改善につながるかどうかは、今後の大学の取組みによるものと考えているのかも知れません。

アンケートの結果は、令和2(2020)年3月発行予定の調査研究報告書にその詳細を掲載しますので、合わせてご参照ください。

大学教職員のためのよくわかる認証評価

認証評価は遠い存在—という教職員の方に向けて、基礎事項を解説します。

「学修成果」とは

平成20(2008)年の答申「学士課程教育の構築に向けて」は、『学習成果』は、プログラムやコースなど、一定の学習期間終了時に、学習者が知り、理解し、行い、実演できることを期待される内容を言明したもの」であり、「学習者が獲得すべき知識、スキル、態度など」と示しています。

その後さまざまな議論を経て、平成30(2018)年に公表された答申「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、高等教育改革の実現すべき方向性の一つに「高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が『何を学び、身に付けることができるのか』を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること」を挙げました。そして、このために、「多様で柔軟な教育研究体制が各高等教育

機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていくこと」を求めています。

現在、文科省では、学修成果の定義について検討しており、今後は共通の定義に基づく情報公開についても大学に求める予定です。

当機構では、第三期の評価から「学修成果の点検・評価」という基準項目を定め、学修成果を重視した評価を実施しています。この基準項目では、学修状況、資格取得状況や就職状況の調査、学生の意識調査、就職先の企業アンケート等により、学修成果を適切に測定し、点検・評価しているかを確認しています。また、教育内容及び学修指導等の改善に向けて、点検・評価の結果をフィードバックしているかも求めています。

認定マークを変更しました

当機構では、評価の結果「適合」と判定された大学に「認定マーク」を交付しています。大学は当機構の定めに基づき、ホームページや広報誌、名刺などに使用できます。

平成30(2018)年度からの第3期の評価では、認定期間を入れた新しい認定マークに変更しました(図1)。評価の種別は現在、UNIVERSITY(大学)、JUNIOR COLLEGE(短期大学)、FASHION BUSINESS(ファッション・ビジネス系専門職大学院)の3種類がありますが、いずれも変更しました。認定期間は、次の認証評価を受けるまでの最大の期間として表しています。これにより、いつまでに評価を受けるべきか、すぐにわかるようになりました。

新しい認定マークは、当機構のJIHEEロゴ、認定回数、評価の種別、認定期間で構成しています。認定回数は、当機構で評価を受け、「適合」判定を受けた回数をローマ数字で示しています。

認定マークに関する取扱要領はホームページで掲載していますので、ご参照ください。また、今年度8月に発行する大学用マニュアル「受審のてびき」にも記載し、ホームページで公表する予定です。

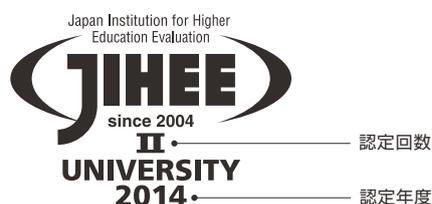
★取扱要領はこちら

<http://www.jiheer.or.jp/outline/regulation.html>

図1 新しい認定マーク(平成30年度以降に付与)



〈参考〉平成24～29年度の認定マーク



評価のフォローアップに関する事業

当機構では、大学への支援事業として、大学からの求めに応じ、当該年度に評価を受けている大学に対する「事前相談」「事後相談」と、会員校等を対象として内部質保証の充実のために当機構の職員を講師として大学に派遣する事業を行っています。

事前相談は、評価を受ける準備に関する相談を対面で行います。電話やメールではわかりにくい自己点検評価書の作成方法や実地調査時のスケジュールの確認など、大学の希望に合わせ、内容は多岐にわたります。評価を受ける年度の4月から実地調査までの間に、大学または当機構事務局内で行います。大学で行う場合、当機構職員派遣のための交通費は大学にご負担いただきます。

事後相談は、評価結果に関する相談を行うものです。評価の内容や意見申立てへの審議過程、指摘のあった事項に対する今後の手続きなどについて相談することができます。評価結果確定後、3月上旬から3月末日までの間に、当機構事務局内で行われます。

講師派遣事業は、会員校等の内部質保証の充実や教育研究活動の自律的な展開を支援することを目的としています。自己点検・評価や認証評価への取組みに向けたFD・SD研修などに、ぜひご活用ください。

★問合せ

事前相談・事後相談：評価事業部(03-5211-5181)

講師派遣事業：総務部(03-5211-5131)

メールマガジンを発行しています

当機構では、毎月末にメールマガジンを配信しています。会員校、評価員候補者、当年度と次年度の評価校の自己評価担当者、当機構の関係者など、現在約1,500人にご登録いただいています。

内容は、評価の進行状況、当機構で開催する各種セミナーの情報、評価校や評価員への連絡、文部科学省関連情報など、その時期に必要な情報をわかりやすく編集しています。

このほか、「ピックアップ」では、第3期の評価システムで新しく設けた「特記事項」や、「独自基準」の内容を紹介しています。

★新規登録の受付：magazine@jihce.or.jp

中央教育審議会による認証評価に係るヒアリングを受けて

当機構は、昨年12月25日、中央教育審議会大学分科会の認証評価機関の認証に関する審査委員会によって、「認証評価機関が行う自己点検・評価に係るヒアリング」を受けました。このヒアリングは、当機構をはじめ、主な機関別認証評価機関を対象に個別に行われたもので、まず各機関に共通した質問として、(1) 認証評価に対する社会の目が厳しいことについていかに考えるか、(2) 認証評価機関にとっても、受審大学にとっても、評価疲れが大きな問題になってはいないか、という2点について質疑が交わされました。

これらに関して、認証評価制度の社会的認知度を高める必要性は我々も認識しており、今後、認証評価機関連絡協議会等を通じて対処する必要があります。また、評価疲れの大きな原因として、負担に見合った効果が出ていないからといった指摘もありました。

その他、認証評価の第2サイクルで用いられていた自己点検・評価という表現と、現今の第3サイクルにおける内

部質保証とはどのように違うのか、評価における「優れた点」の意味、さらに独自基準や特記事項の位置づけなどについて質疑が交わされ、当機構の管理・運営に係る諸点にも議論が及びました。

ヒアリングの結果として、

- ①独自基準や特記事項など、大学の特色の進展に資する評価が行われていることは優れている
 - ②評価の実施のみならず、シンクタンク機能を有する他機関との連携を通じて、高等教育の質保証に資することが期待される
 - ③同窓会や関連企業の関係者等の面談を積極的に実施し、多様な者からの意見を聴取することが期待される
 - ④他の評価機関や文部科学省とも連携を取りつつ、認証評価の社会的認知度の向上に向けた方策を先駆的に示し、他の評価機関の模範となるような事例分析などの活動が期待される
- などの諸点が審査委員会によって指摘されました。

Annual Plan and Report

当機構の事業計画・事業報告から、主な項目をピックアップしてお知らせします。



■令和元(2019)年度 事業計画

●評価の実施

認証評価 17 大学・1 短期大学 / 再評価 3 大学・1 短期大学

●評価システム改善

- ・第3期評価システムにおける実施方法の検証
- ・学校教育法等の法令改正への対応の検討

●大学の内部質保証に関する調査・研究

- ・受審大学の自己点検・評価をサポートするため「優れた自己点検評価書」等について調査・研究
- ・スウェーデンの高等教育審議会(UKÄ)及び大学等への訪問調査

■平成30(2018)年度 事業報告

●評価の実施

認証評価 15 大学(適合 14 / 保留 1) / 再評価 3 大学(適合 2 / 不適合 1)

●評価システム改善

- ・評価チーム团长座談会の実施(12月)
- 第3期初年度の評価実施に関する意見聴取
- ・ファッション・ビジネス系専門職大学院認証評価実施大綱及び評価基準の改訂

●海外評価団体及び大学に対する調査・研究

- ・オーストラリアの質保証機関(TEQSA、ASQA)と大学への訪問調査(11月)



左右に配置された流線は「地球」と、両手で作る「輪」をイメージしています。大学と社会を結ぶ機構でありたいとの想いを込めました。

Peer(ピア) 第14号

令和元(2019)年7月10日発行

編集人 伊藤敏弘

編集 小林澄子 江成一敏 板垣智香 吉野由紀 林芷伊 佐藤駿介 前河泰正 牧亜裕

発行 公益財団法人 日本高等教育評価機構

所在地 〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-11 第2星光ビル2階

TEL 03-5211-5131 FAX 03-5211-5132 URL <http://www.jihee.or.jp/>

当機構へのご意見・ご質問や「Peer(ピア)」へのご要望はこちらへ

✉ hyoukakikou@jihee.or.jp

ホームページからお問合せいただけます



大学
354校

公立 4校

- 北海道 1校
公立千歳科学技術大学
- 長野 2校
公立諏訪東京理科大学
長野大学
- 山口 1校
山陽小野田市立
山口東京理科大学

私立 348校

- 北海道 17校
旭川大学
札幌大学
札幌大谷大学
札幌国際大学
札幌保健医療大学
星槎道都大学
苫小牧駒澤大学
日本医療大学
函館大学
北翔大学
北星学園大学
北海学園大学
北海道科学大学
北海道情報大学
酪農学園大学
稚内北星学園大学
- 青森 6校
青森大学
青森中央学院大学
東北女子大学
八戸学院大学
八戸工業大学
弘前医療福祉大学
- 岩手 2校
富士大学
盛岡大学
- 宮城 6校
尚絅学院大学
仙台大学
東北医科薬科大学
東北工業大学
東北生活文化大学
東北文化学園大学
- 秋田 2校
秋田看護福祉大学
ノースアジア大学
- 山形 3校
東北芸術工科大学
東北公益文科大学
東北文科大学
- 福島 4校
奥羽大学
郡山女子大学
東日本国際大学
福島学院大学
- 茨城 2校
筑波学院大学
日本ウェルネス
スポーツ大学
- 栃木 3校
足利大学
国際医療福祉大学
作新学院大学
- 群馬 7校
関東学園大学
共愛学園前橋国際大学
桐生大学
群馬医療福祉大学
群馬パース大学
高崎商科大学
東京福祉大学
- 埼玉 19校
浦和大学
共栄大学
埼玉医科大学
埼玉学園大学
十文字学園女子大学
尚美学園大学
女子栄養大学
西武文理大学
東都大学
東邦音楽大学
日本医療科学大学
日本工業大学
日本保健医療大学
日本薬科大学
人間総合科学大学
平成国際大学
武蔵野学院大学
明海大学
ものづくり大学
- 千葉 17校
愛国学園大学
植草学園大学
江戸川大学
開智国際大学
亀田医療大学
川村学園女子大学
神田外語大学
三育学院大学
秀明大学
聖徳大学
清和大学
千葉科学大学
千葉経済大学
千葉工業大学
千葉商科大学
千葉女子大学
麗澤大学
- 東京 41校
上野学園大学
桜美林大学
大妻女子大学
嘉悦大学
国立音楽大学
国士館大学
こども教育宝仙大学
昭和大学
杉野服飾大学
高千穂大学
多摩大学
帝京大学
帝京科学大学
帝京平成大学
東京有明医療大学
東京医療学院大学
東京音楽大学
東京家政学院大学
東京工科大学
東京純心大学
東京女子体育大学
東京聖栄大学
東京成徳大学
東京造形大学
東京富士大学
東京未来大学
桐朋学園大学
二松学舎大学
日本医科大学
日本歯科大学
日本獣医生命科学大学
日本女子体育大学
日本体育大学
日本文化大学
ハリウッド大学院大学
文化学園大学
文化ファッション大学院大学
武蔵野音楽大学
- 山梨 3校
高岡法科大学
桐朋学園大学院大学
富山国際大学
- 石川 6校
金沢学院大学
金沢工業大学
金沢星稜大学
金城大学
北陸大学
北陸学院大学
- 福井 2校
仁愛大学
福井工業大学
- 長野 3校
佐久大学
松本大学
松本歯科大学
- 岐阜 6校
朝日大学
岐阜医療科学大学
岐阜協立大学
岐阜女子大学
中央学院大学
東海学院大学
- 静岡 5校
静岡英和学院大学
静岡産業大学
静岡福祉大学
静岡理工科大学
浜松学院大学
- 愛知 32校
愛知学院大学
愛知学泉大学
愛知工科大学
愛知工業大学
愛知産業大学
愛知東邦大学
愛知文教大学
愛知みずほ大学
一宮研伸大学
桜花学園大学
岡崎女子大学
金城学院大学
修文大学
椋山女子学園大学
星城大学
大同大学
中部大学
東海学園大学
- 三重 4校
鈴鹿大学
鈴鹿医療科学大学
四日市大学
四日市看護医療大学
- 滋賀 4校
安造形大学
聖泉大学
びわこ学院大学
びわこ成蹊スポーツ大学
- 京都 14校
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都華頂大学
京都看護大学
京都情報大学院大学
京都先端科学大学
京都造形芸術大学
京都美術工芸大学
嵯峨美術大学
種智院大学
花園大学
佛教大学
平安女学院大学
明治国際医療大学
- 大阪 35校
大阪青山大学
大阪大谷大学
大阪音楽大学
大阪河崎
リハビリテーション大学
大阪観光大学
大阪経済法科大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪国際大学
大阪歯科大学
大阪樟蔭女子大学
大阪商業大学
大阪成蹊大学
大阪電気通信大学
大阪人間科学大学
大阪物療大学
大阪保健医療大学
大阪行岡医療大学
関西医療大学
関西外国語大学
関西福祉科学大学
滋慶医療科学大学院大学
四條畷学園大学
四天王寺大学
摂南大学
千里金蘭大学
相愛大学
太成学院大学
帝塚山学院大学
常盤会学園大学
梅花女子大学
羽衣国際大学
東大阪大学
森ノ宮医療大学
大和大学
- 兵庫 15校
芦屋大学
大手前大学
関西国際大学
関西福祉大学
甲子園大学
甲南女子大学
神戸医療福祉大学
神戸芸術工科大学
神戸国際大学
神戸常盤大学
神戸山手大学
宝塚大学
宝塚医療大学
姫路獨協大学
兵庫大学
- 奈良 2校
奈良大学
奈良学園大学
- 岡山 10校
岡山学院大学
岡山商科大学
岡山理科大学
環太平洋大学
吉備国際大学
倉敷芸術科学大学
くらしき作陽大学
山陽学園大学
中国学園大学
美作大学
- 広島 12校
エリザベト音楽大学
比治山大学
広島経済大学
広島工業大学
広島国際大学
広島国際学院大学
広島都市学園大学
広島文化学園大学
広島文教大学
福山大学
福山平成大学
安田女子大学
- 山口 6校
宇部フロンティア大学
至誠館大学
東亜大学
徳山大学
梅光学院大学
山口学芸大学
- 徳島 1校
徳島文理大学
- 香川 2校
四国学院大学
高松大学
- 愛媛 1校
松山東雲女子大学
- 福岡 14校
九州栄養福祉大学
九州共立大学
九州国際大学
九州情報大学
久留米工業大学
純真学園大学
西南学院大学
聖マリア学院大学
第一薬科大学
筑紫学園大学
西日本工業大学
福岡工業大学
保健医療経営大学
- 佐賀 1校
西九州大学
- 長崎 4校
長崎ウエスレヤン大学
長崎外国語大学
長崎国際大学
- 熊本 5校
九州看護福祉大学
熊本保健科学大学
尚絅大学
崇城大学
平成音楽大学
- 大分 2校
日本文理大学
別府大学
- 宮崎 4校
九州保健福祉大学
南九州大学
宮崎国際大学
宮崎産業経営大学
- 鹿児島 3校
鹿児島純心女子大学
志学館大学
第一工業大学
- 沖縄 2校
沖縄キリスト教学院大学
沖縄国際大学

- 目白大学
ヤマザキ動物看護大学
SBI大学院大学
- 神奈川 12校
神奈川工科大学
鎌倉女子大学
産業能率大学
松蔭大学
昭和音楽大学
星槎大学
田園調布学園大学
日本映画大学
八洲学園大学
横浜商科大学
横浜創英大学
横浜薬科大学
- 新潟 6校
国際大学
長岡大学
新潟医療福祉大学
新潟経営大学
新潟国際情報大学
新潟青陵大学
- 山梨 3校
健康科学大学
身延山大学
山梨学院大学
- 富山 3校
高岡法科大学
桐朋学園大学院大学
富山国際大学
- 石川 6校
金沢学院大学
金沢工業大学
金沢星稜大学
金城大学
北陸大学
北陸学院大学
- 福井 2校
仁愛大学
福井工業大学
- 長野 3校
佐久大学
松本大学
松本歯科大学
- 岐阜 6校
朝日大学
岐阜医療科学大学
岐阜協立大学
岐阜女子大学
中央学院大学
東海学院大学
- 静岡 5校
静岡英和学院大学
静岡産業大学
静岡福祉大学
静岡理工科大学
浜松学院大学
- 愛知 32校
愛知学院大学
愛知学泉大学
愛知工科大学
愛知工業大学
愛知産業大学
愛知東邦大学
愛知文教大学
愛知みずほ大学
一宮研伸大学
桜花学園大学
岡崎女子大学
金城学院大学
修文大学
椋山女子学園大学
星城大学
大同大学
中部大学
東海学園大学
- 三重 4校
鈴鹿大学
鈴鹿医療科学大学
四日市大学
四日市看護医療大学
- 滋賀 4校
安造形大学
聖泉大学
びわこ学院大学
びわこ成蹊スポーツ大学
- 京都 14校
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都華頂大学
京都看護大学
京都情報大学院大学
京都先端科学大学
京都造形芸術大学
京都美術工芸大学
嵯峨美術大学
種智院大学
花園大学
佛教大学
平安女学院大学
明治国際医療大学
- 大阪 35校
大阪青山大学
大阪大谷大学
大阪音楽大学
大阪河崎
リハビリテーション大学
大阪観光大学
大阪経済法科大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪国際大学
大阪歯科大学
大阪樟蔭女子大学
大阪商業大学
大阪成蹊大学
大阪電気通信大学
大阪人間科学大学
大阪物療大学
大阪保健医療大学
大阪行岡医療大学
関西医療大学
関西外国語大学
関西福祉科学大学
滋慶医療科学大学院大学
四條畷学園大学
四天王寺大学
摂南大学
千里金蘭大学
相愛大学
太成学院大学
帝塚山学院大学
常盤会学園大学
梅花女子大学
羽衣国際大学
東大阪大学
森ノ宮医療大学
大和大学
- 兵庫 15校
芦屋大学
大手前大学
関西国際大学
関西福祉大学
甲子園大学
甲南女子大学
神戸医療福祉大学
神戸芸術工科大学
神戸国際大学
神戸常盤大学
神戸山手大学
宝塚大学
宝塚医療大学
姫路獨協大学
兵庫大学
- 奈良 2校
奈良大学
奈良学園大学
- 岡山 10校
岡山学院大学
岡山商科大学
岡山理科大学
環太平洋大学
吉備国際大学
倉敷芸術科学大学
くらしき作陽大学
山陽学園大学
中国学園大学
美作大学
- 広島 12校
エリザベト音楽大学
比治山大学
広島経済大学
広島工業大学
広島国際大学
広島国際学院大学
広島都市学園大学
広島文化学園大学
広島文教大学
福山大学
福山平成大学
安田女子大学
- 山口 6校
宇部フロンティア大学
至誠館大学
東亜大学
徳山大学
梅光学院大学
山口学芸大学
- 徳島 1校
徳島文理大学
- 香川 2校
四国学院大学
高松大学
- 愛媛 1校
松山東雲女子大学
- 福岡 14校
九州栄養福祉大学
九州共立大学
九州国際大学
九州情報大学
久留米工業大学
純真学園大学
西南学院大学
聖マリア学院大学
第一薬科大学
筑紫学園大学
西日本工業大学
福岡工業大学
保健医療経営大学
- 佐賀 1校
西九州大学
- 長崎 4校
長崎ウエスレヤン大学
長崎外国語大学
長崎国際大学
- 熊本 5校
九州看護福祉大学
熊本保健科学大学
尚絅大学
崇城大学
平成音楽大学
- 大分 2校
日本文理大学
別府大学
- 宮崎 4校
九州保健福祉大学
南九州大学
宮崎国際大学
宮崎産業経営大学
- 鹿児島 3校
鹿児島純心女子大学
志学館大学
第一工業大学
- 沖縄 2校
沖縄キリスト教学院大学
沖縄国際大学

- 同朋大学
豊橋創造大学
名古屋音楽大学
名古屋外国語大学
名古屋学芸大学
名古屋経済大学
名古屋芸術大学
名古屋産業大学
名古屋女子大学
名古屋造形大学
名古屋文理大学
人間環境大学
名城大学
- 三重 4校
鈴鹿大学
鈴鹿医療科学大学
四日市大学
四日市看護医療大学
- 滋賀 4校
安造形大学
聖泉大学
びわこ学院大学
びわこ成蹊スポーツ大学
- 京都 14校
京都医療科学大学
京都外国語大学
京都華頂大学
京都看護大学
京都情報大学院大学
京都先端科学大学
京都造形芸術大学
京都美術工芸大学
嵯峨美術大学
種智院大学
花園大学
佛教大学
平安女学院大学
明治国際医療大学
- 大阪 35校
大阪青山大学
大阪大谷大学
大阪音楽大学
大阪河崎
リハビリテーション大学
大阪観光大学
大阪経済法科大学
大阪芸術大学
大阪工業大学
大阪国際大学
大阪歯科大学
大阪樟蔭女子大学
大阪商業大学
大阪成蹊大学
大阪電気通信大学
大阪人間科学大学
大阪物療大学
大阪保健医療大学
大阪行岡医療大学
関西医療大学
関西外国語大学
関西福祉科学大学
滋慶医療科学大学院大学
四條畷学園大学
四天王寺大学
摂南大学
千里金蘭大学
相愛大学
太成学院大学
帝塚山学院大学
常盤会学園大学
梅花女子大学
羽衣国際大学
東大阪大学
森ノ宮医療大学
大和大学
- 兵庫 15校
芦屋大学
大手前大学
関西国際大学
関西福祉大学
甲子園大学
甲南女子大学
神戸医療福祉大学
神戸芸術工科大学
神戸国際大学
神戸常盤大学
神戸山手大学
宝塚大学
宝塚医療大学
姫路獨協大学
兵庫大学
- 奈良 2校
奈良大学
奈良学園大学
- 岡山 10校
岡山学院大学
岡山商科大学
岡山理科大学
環太平洋大学
吉備国際大学
倉敷芸術科学大学
くらしき作陽大学
山陽学園大学
中国学園大学
美作大学
- 広島 12校
エリザベト音楽大学
比治山大学
広島経済大学
広島工業大学
広島国際大学
広島国際学院大学
広島都市学園大学
広島文化学園大学
広島文教大学
福山大学
福山平成大学
安田女子大学
- 山口 6校
宇部フロンティア大学
至誠館大学
東亜大学
徳山大学
梅光学院大学
山口学芸大学
- 徳島 1校
徳島文理大学
- 香川 2校
四国学院大学
高松大学
- 愛媛 1校
松山東雲女子大学
- 福岡 14校
九州栄養福祉大学
九州共立大学
九州国際大学
九州情報大学
久留米工業大学
純真学園大学
西南学院大学
聖マリア学院大学
第一薬科大学
筑紫学園大学
西日本工業大学
福岡工業大学
保健医療経営大学
- 佐賀 1校
西九州大学
- 長崎 4校
長崎ウエスレヤン大学
長崎外国語大学
長崎国際大学
- 熊本 5校
九州看護福祉大学
熊本保健科学大学
尚絅大学
崇城大学
平成音楽大学
- 大分 2校
日本文理大学
別府大学
- 宮崎 4校
九州保健福祉大学
南九州大学
宮崎国際大学
宮崎産業経営大学
- 鹿児島 3校
鹿児島純心女子大学
志学館大学
第一工業大学
- 沖縄 2校
沖縄キリスト教学院大学
沖縄国際大学

- 長崎総合科学大学
- 熊本 5校
九州看護福祉大学
熊本保健科学大学
尚絅大学
崇城大学
平成音楽大学
- 大分 2校
日本文理大学
別府大学
- 宮崎 4校
九州保健福祉大学
南九州大学
宮崎国際大学
宮崎産業経営大学
- 鹿児島 3校
鹿児島純心女子大学
志学館大学
第一工業大学
- 沖縄 2校
沖縄キリスト教学院大学
沖縄国際大学

- 株式会社 2校
- 東京 2校
ビジネス・
ブレイクスルー大学
LEC 東京リーガル
マインド大学院大学

短期大学
23校

- 私立 23校
- 北海道 1校
札幌大谷大学短期大学部
- 青森 1校
八戸学院大学短期大学部
- 東京 5校
上野学園大学短期大学部
大妻女子大学短期大学部
自由が丘産能短期大学
杉野服飾大学短期大学部
文化学園大学短期大学部
- 神奈川 2校
鎌倉女子大学短期大学部
昭和音楽大学短期大学部
- 石川 1校
北陸学院大学短期大学部
- 岐阜 1校
東海学院大学短期大学部
- 静岡 1校
静岡英和学院大学
短期大学部
- 滋賀 1校
びわこ学院大学短期大学部
- 大阪 2校
大阪音楽大学短期大学部
大阪芸術大学短期大学部
- 兵庫 1校
兵庫大学短期大学部
- 岡山 2校
作陽音楽短期大学
山陽学園短期大学
- 広島 2校
比治山大学短期大学部
安田女子短期大学
- 愛媛 1校
松山東雲短期大学
- 福岡 1校
福岡こども短期大学
- 鹿児島 1校
第一幼児教育短期大学